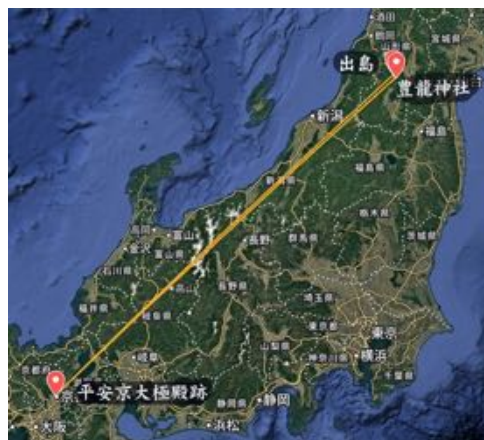


東善寺瑠璃殿（新宿薬師堂）

●朝日町新宿にある東善寺瑠璃殿（薬師堂）は、山形県立中央病院の護りの一つとなっていた。（詳しくは別頁「薬師如来に護られている山形県立中央病院」）この瑠璃殿には、山形県の有形文化財になっている薬師如来立像がある。日光・月光菩薩が脇侍を務める薬師三尊の形をとり、十二神将たちも護られている。12世紀初めに作られたと推定されているが、『蒙古録』では、天地天皇の時代（662～71）京都誓願寺の本尊阿弥陀如来を造立した際、その余材をもって作り瑠璃殿に納めたとされている。地元の歴史家たちにとってはどうしてこんな田舎に立派な薬師如来像があるのか疑問らしい。はたして朝日岳信仰に関わっているのだろうか。コンパスを回してみた。

●サイト「あさひまちエコミュージアム」に、瑠璃殿は同町宮宿にある豊龍神社（東守寺）の配下寺だったと書かれていた。豊龍神社は、承和11年（844）年に円仁の弟子の安慧が開いた。以前に取り上げたが、平安京大極殿から大沼浮島（出島）と同距離に建てられて、大極殿に大沼の神気を送り込むサポートをしている。天台系の祭祀線を持つ神社である。

■平安京大極殿跡 →→→ 536.783km →→→ 大沼浮島（出島）
→→→ 536.783km →→→ 豊龍神社



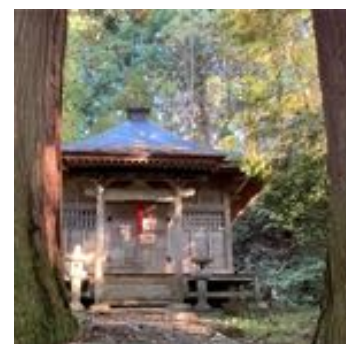
●さっそく豊龍神社と繋いでみた。

●すると大朝日岳信仰の一大拠点だった大沼地区内にある小さな社の六面地蔵にぶつかった。薬師堂が大沼とつながるために六面地蔵を置いたのだろうか。しかし、六面地蔵と出島や浮嶋稲荷神社とつながる祭祀線は見つからなかった。祭祀線はライン上に三つ以上の聖地がないと成り立たない。豊龍神社（東守寺）・瑠璃殿（東善寺）双方に神気がつながるように同ライン上に六地蔵を置いて三尊にしたと思われる。大沼の山伏たちに大沼の神気を送ってもらっていたのだろうか…。いずれにせよ瑠璃殿が東守寺の配下寺だったことを裏付ける祭祀線と言える。



■東善寺瑠璃殿（新宿薬師堂）

創建年は不明。薬師如来を祀る東善寺 瑠璃殿（堂）は、宝永5年（1708）の棟札から、羽黒山修験の末寺で豊龍神社（宮宿）を祀るもと東守寺の配下寺だったことが分かりました。木造薬師如来立像は平成5年に山形県有形文化財に指定されました。地方仏師の手によって、平安後期に造顕されたものと考えられています。『蒙古録』では、天地天皇の時代（662～71）京都誓願寺の本尊阿弥陀如来を造立した際、その余材をもって作り瑠璃殿に納めたとされています。毎月8日が“おようが”と呼ばれるお参りの日とされ、例祭は5月8日だったが、現在は第2日曜日に新宿区民をあげて賑やかに行われています。



薬師像は、日天・月天菩薩を脇時にした薬師三尊。さらに十二神将の像もある。瑠璃殿の参道入り口付近には別当だった不動院があり、戦後頃までは大江豊磨という山伏がいた。瑠璃殿内に不動院のものと思われる不動明王像も祀られている。

※サイトあさひまちエコミュージアムより抜粋 山形県朝日町新宿

■豊龍神社

承和11年（844）に延暦寺の僧安慧（あんえ）が奥州を巡り歩いて、講場をその地に開いた時、龍の神霊を祀って東五百川の鎮守として、別当東守寺を建立したと記されている。さらに慶長年間（1596～1615）に寒河江肥前の守が社殿を再建し、明治維新の廃仏毀釈によって豊龍神社となり、東守寺住職は復職して豊嶋氏を称したとする。

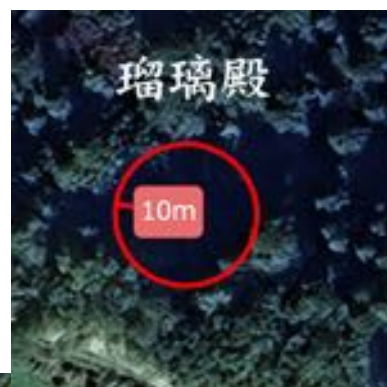
明和年間（1764～72）に左沢在住の松山藩医であった羽柴玄倫が誌した『宗古録』には、安慧がこの地に天台の教えを広める決意をしたとき「瑞巖美麗の姫大神」があらわれ「我こそ海童神（わだつみのかみ）の娘なり」と名のり「汝の護法善神とならん」と誓ってくれたのが豊玉姫大神であるという。

さらに、安慧みずから大般若経600巻を書写して筐（はこ）に納め、この山上に埋めたと述べ、山号を「宝経といい或は宝筐と作る」と書いている。

※『朝日町史 上巻』（朝日町）より抜粋 山形県朝日町宮宿



大朝日岳



■大朝日岳山頂 →→ 20.542km→→ 東善寺瑠璃殿 ←← 20.542km ←← 森観音（長井市）

■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年（7世紀末）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大門



寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初顕神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

●三処とは、大朝日岳、中岳、西朝日岳ではないかと思われる。

■森観音

森は悪鬼沢というところから開けたといわれ、ここに7軒の人家がありました。ここに初めて住み着いた頃、光り輝くものを見て、これは観音様お精霊にちがいないということになり、9尺4面(やく7.2㎡)のお堂を建て、十一面観音を祀りました。また塔の入という山中に平坦地があり、千手観音跡と呼ばれています。ここからは石器等が出ますから、早くから人が住んでいたものと考えられます。ここに観音様が祀られていました。悪鬼沢の観音様と合祀



され現在地に祀られたといわれています。現在地に建てられた時代はわかりませんが、享保3年(1718年)火災にあって享保7年に再建されたものです。この本尊は等身大の十一面観音ですが、享保3年(1718年)の火事で半焼し荒蕪に包んで安置してあります。伝説ではその時たくさんのかんにゃぼう(かわにな)が集まってきて観音像にぴったり付いて炎から守ったといえます。そのおかげでお堂は全部燃えてしまったのに観音様は半焼で済んだそうです。このあたりのかんにゃぼうがよそのものに比べてしっぽが短いのはその時焼けてしまったからだといえます。

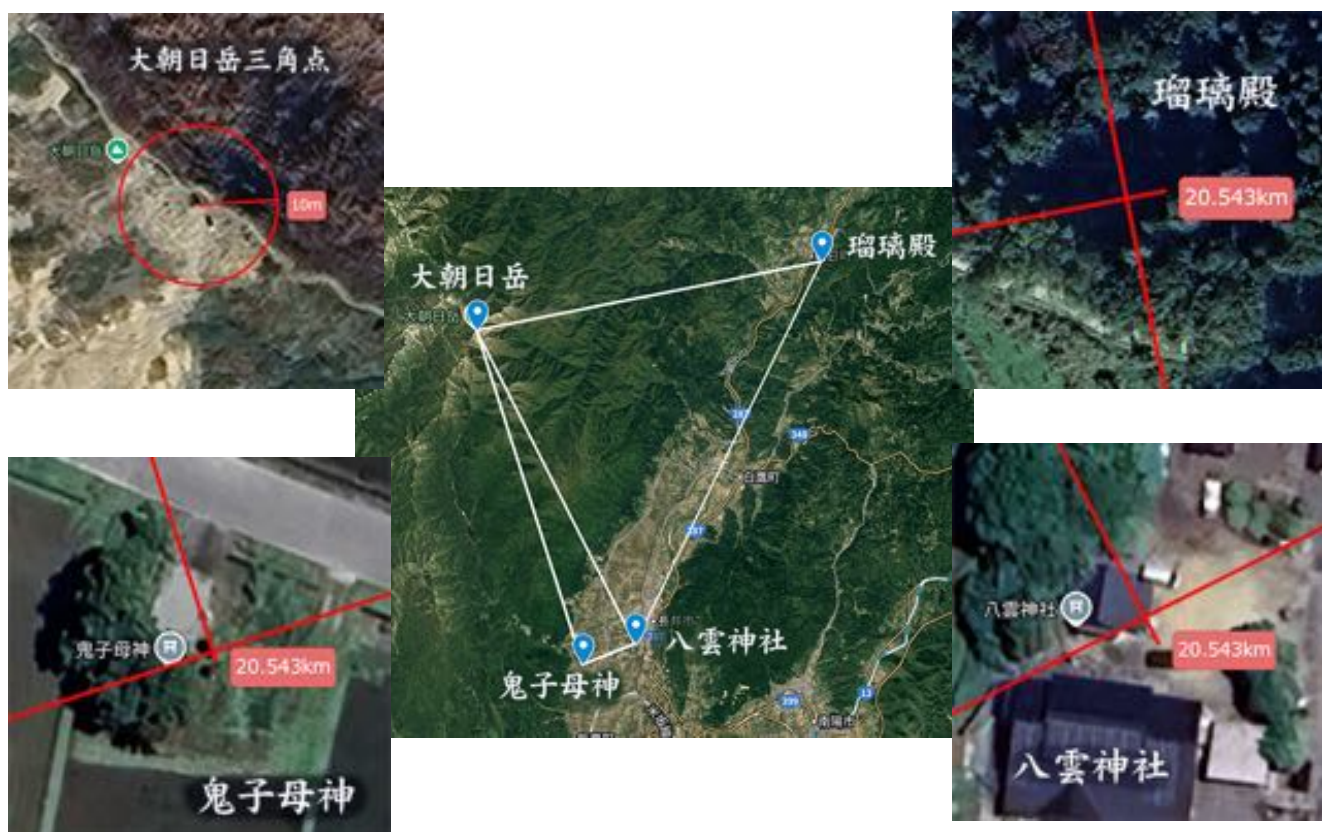
本尊の前にある千手観音像は40cmほどの小さなものですが、澄んだ目の美しい金箔塗りの立像で江戸時代初期のものと思われます。置賜三十三観音霊場の32番です。ご詠歌一ありがたや、教えにまかす、此の身とて、念彼観音の、ちがいなりけりー。お祭りは8月15日に行われています。

※サイト「致芳ふるさとめぐり」より抜粋 山形県長井市森字観音堂 689-1

●朝日岳信仰は祝瓶山のある長井市も拠点となっていた。その長井市にある森観音堂とつながった。大日如来、薬師如来、十一面観音の三尊の組み合わせでご利益ありそう。これで瑠璃殿も朝日岳信仰に関わる薬師堂なことがわかった。



瑠璃殿の薬師如来像と日天菩薩・月天菩薩・十二神将



■東善寺瑠璃殿 →→20.543km→→ 大朝日岳山頂 ←← 20.543km ←← 八雲神社（長井市）
 ←← 20.543km ←← 鬼子母神（飯豊町）

■八雲神社

祭神/素戔鳴尊 神社の創立は大治3年（1128）、京都八坂神社より御分霊を勧請し建立。元禄2年と天明3年に社殿を改築。ご神体はこのあたりの神社では珍しい 600 年前の宥日上人の作と伝えられる牛頭天王です。昔は疱瘡の神として信仰が篤く、健康と交通安全の神様としてすい崇敬されています。

※サイトようこそながいより抜粋 長井市久野本 484 付近

●訪ねてみると八雲神社は正福寺の敷地内にあった。正福寺の開山は大同2年（807）と古い。本尊は愛染明王。

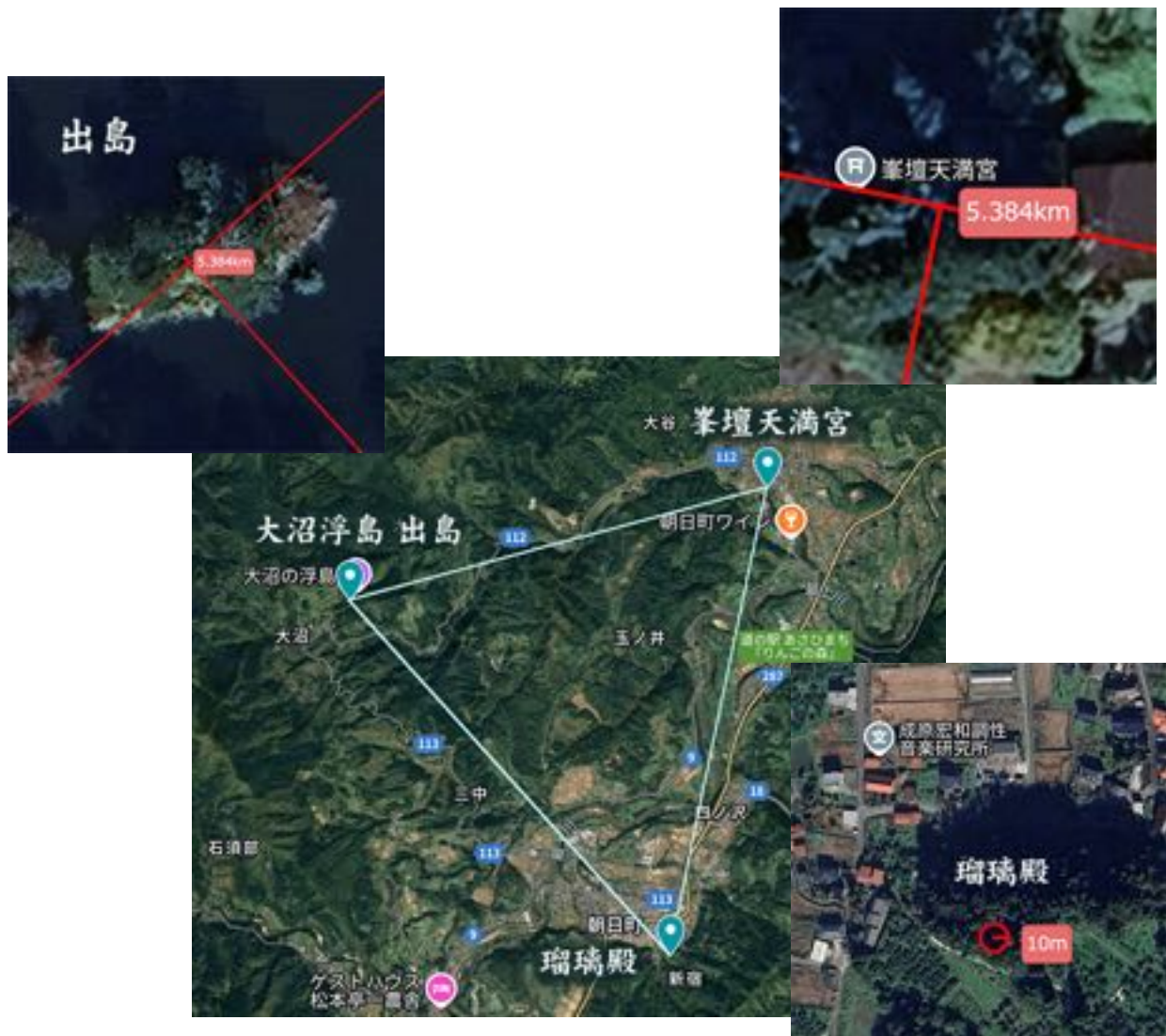


■鬼子母神 詳細不明 山形県西置賜郡飯豊町中

●以前に祭祀線を調べて見つけた長井市の岩上寺跡地につながる八雲神社とまたつながった。これで岩上寺跡地の信憑性はさらに高まった。詳しくは別頁「朝日岳信仰 川口寺・岩上寺跡地 発見!」をご覧ください。

●めずらしい鬼子母神社とつながった。法華經の守護神なので、創建は鎌倉時代以降と考えられる。

大沼浮島 出島



■大沼浮島 出島 →→20.543km→→ 東善寺瑠璃殿 ←← 20.543km ←← 峯壇天満宮

■大沼浮島（役の小角・弁財天）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739 年には行基が訪れ浮島 66 個に国の名前を付けた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島（弁天島）」（写真）が起点となっている。



■峯壇天満宮

創建や由来についての資料もなく伝承もされていないが、お堂に納められている3枚の祈願札によれば、祭主は白山寺宝印宥天、祭施主は白田九兵衛延信と記されている。白山神社との関係があるものと推察される。昔は大きな鳥居があったといわれ、それに懸けてあったのだろう、立派な彫刻の額がお堂に納められている。

西村山郡朝日町大谷



●朝日岳信仰の一大拠点の大沼浮島。そこから流れる大谷川の下流にある大谷地区。ここにも朝日岳を遥拝する金輪寺、大円寺、平円寺があった。菅原道真左遷のおりに側室一党が移り住んだとされている。地区内には四つの天満宮が祀られていた。峯壇天満宮はその一つ。現在は小さな社だがかつては他の場所にもっと大きな社殿だったことがわかった。社殿の中には立派な掲額が収められている→。



●元の位置は祭祀線で見つけてある。詳しくは別頁「大谷の祭祀族菅原家を護っていた菱形祭祀線」をご覧ください。

●峯壇天満宮が移動してからの祭祀線だと思われるが、もしかしたら瑠璃殿とつながるために移動したのだろうか…



■西林寺 →→ 20.382km →→ 大沼浮島 出島 ←← 20.382km ←← 東善寺瑠璃殿

■西林寺 詳細不明 真言宗智山派 山形県西村山郡大江町沢口7 5

●瑠璃殿は天台系、西林寺は真言宗!?

●いずれ朝日岳信仰の聖地すべてとつながるかを調べてみるつもりなので見つけられしだい追記するが、とりあえずこれで瑠璃殿が朝日岳信仰とつながるために建立されたことがわかった。ということは、少なくとも鎌倉時代の北条執権時頼による朝日岳千年封じに遭う前に建立されたことは間違いない。

●さて、やっぱり先ほどの瑠璃殿→豊龍神社→大沼六地藏の祭祀線が気になる。なにか意味がありそうな気がしてならない。

●ふと、豊龍神社を建立した安慧は円仁（慈覚大師）の弟子なことを思い出した。ならば立石寺！弟子の寺が師匠の寺につながっていないはずはない。山形の一大聖地の立石寺は大沼浮島（出島）と南陽市の熊野大社とつながっていたことを思い出した。

詳しくは別頁「日本三大 宮内熊野大社と立石寺」を。

豊龍神社



■池黒皇大神社 →→ 25.449km →→ 豊龍神社本殿 ←← 25.449km ←← 立石寺奥の院

■立石寺 奥の院

正しくは「如法堂」といいます。慈覚大師が中国で持ち歩いてたとされる釈迦如来と多宝如来の両尊を御本尊とする如法堂は、参道の終点にあるので「奥の院」と呼ばれています。この道場で慈覚大師が初められた石墨草筆・一字三礼の如法写経行が護られています。また如法堂左側の大仏殿には、像高5メートルの金色の阿弥陀如来が安置され、宗派を問わず供養に数多くの人が訪れます。山形市山寺4456-1



■池黒皇大神社

皇大神社は中よりの杉林の中にあります。

この神社には県内最古と言われてきた棟札（建物の棟上げの際に建造の年月や施主、大工などを記して後日に伝えるために作成され天井の棟木などに打ちつけられる板札）が所蔵されています。これは実は棟札としては日本最古の可能性があるとされているものなのです。平安期の応徳三年・1086年とされており、現在最古の岩手中尊寺所蔵の保安三年・1122年のものより36年遡ると言われています。科学的な測定により立証が求められています。

（以上以下において地元の歴史家、高岡亮一氏の資料より引用させていただきました。）

桓武天皇治世、坂上田村麻呂の東征の際に屯軍の地として城砦を築き、社を建立し古来より坂上神明神社と称された。坂上田村麻呂が置賜に足を踏み入れた文書記録はないが、長井の総宮神社、久保の桜、米沢

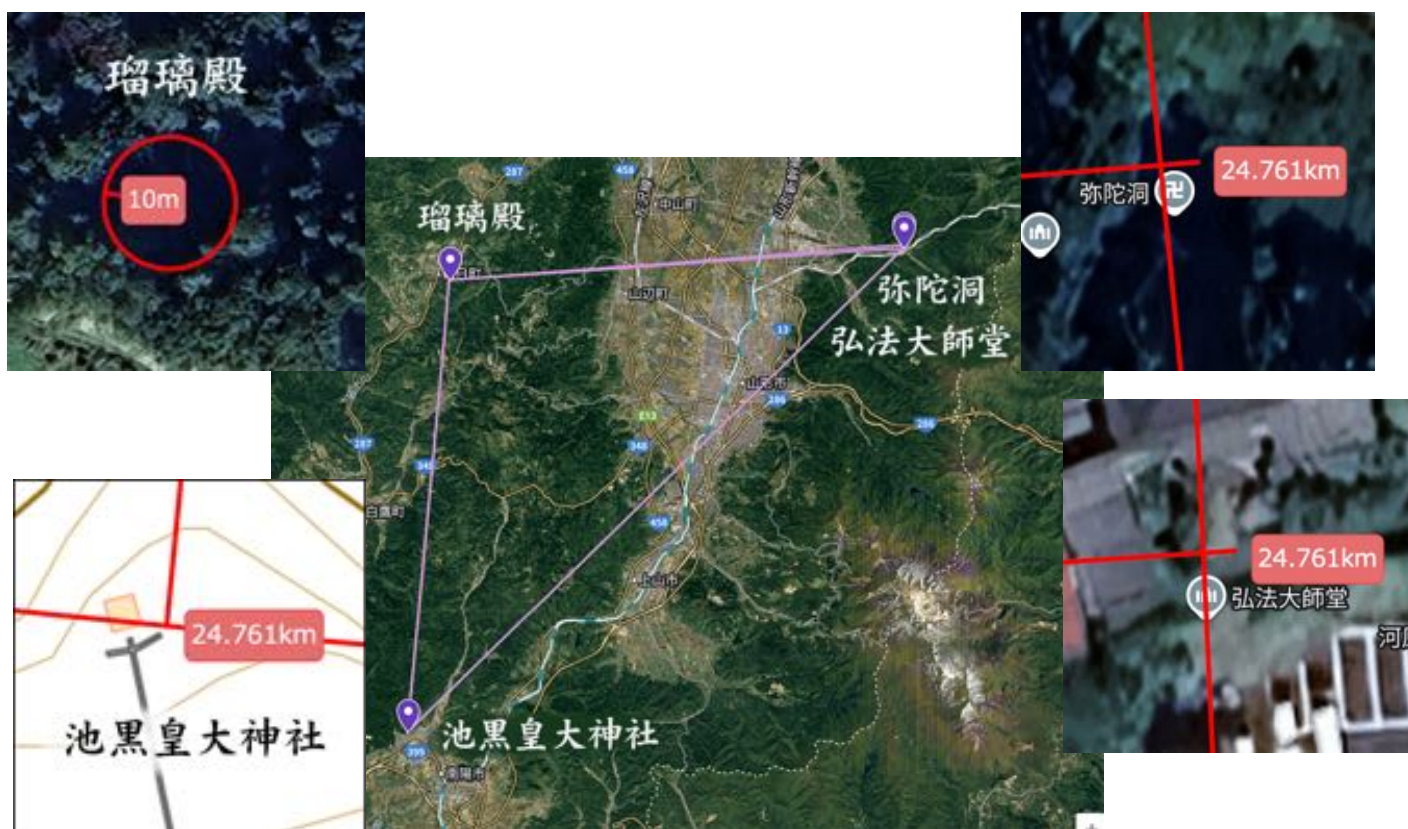


の成島八幡など置賜に伝えは多いとのこと。祭神/春日大神、八幡大神、大日靈命

※サイト山形県・県南囲碁リーグ戦より抜粋 山形県南陽市池黒

●なんと！ 坂上神明神社と呼ばれた池黒皇大神社とつながった。坂上田村麻呂が征夷大將軍になったのは 797 年。アテルイが斬首されたのは 802 年。豊龍神社は 844 年…。いずれ山形の坂上田村麻呂の祭祀線を調べなければ。

瑠璃殿（新宿薬師堂）



■池黒皇大神社 →→ 24.761km →→ 瑠璃殿（新宿薬師堂） ←← 24.761km ←← 弥陀洞
←← 24.761km ←← 弘法大師堂

■弥陀洞（丈六の阿弥陀）

弥陀洞（みだほら）は、岩が長い年月をかけて雨や風の自然現象によって削られ、直立した阿弥陀如来の姿に形作られたもの。その姿は、約 4.8m にもなり、仏の姿に見ることができる人には、幸運が訪れるといわれています。



■弘法大師堂

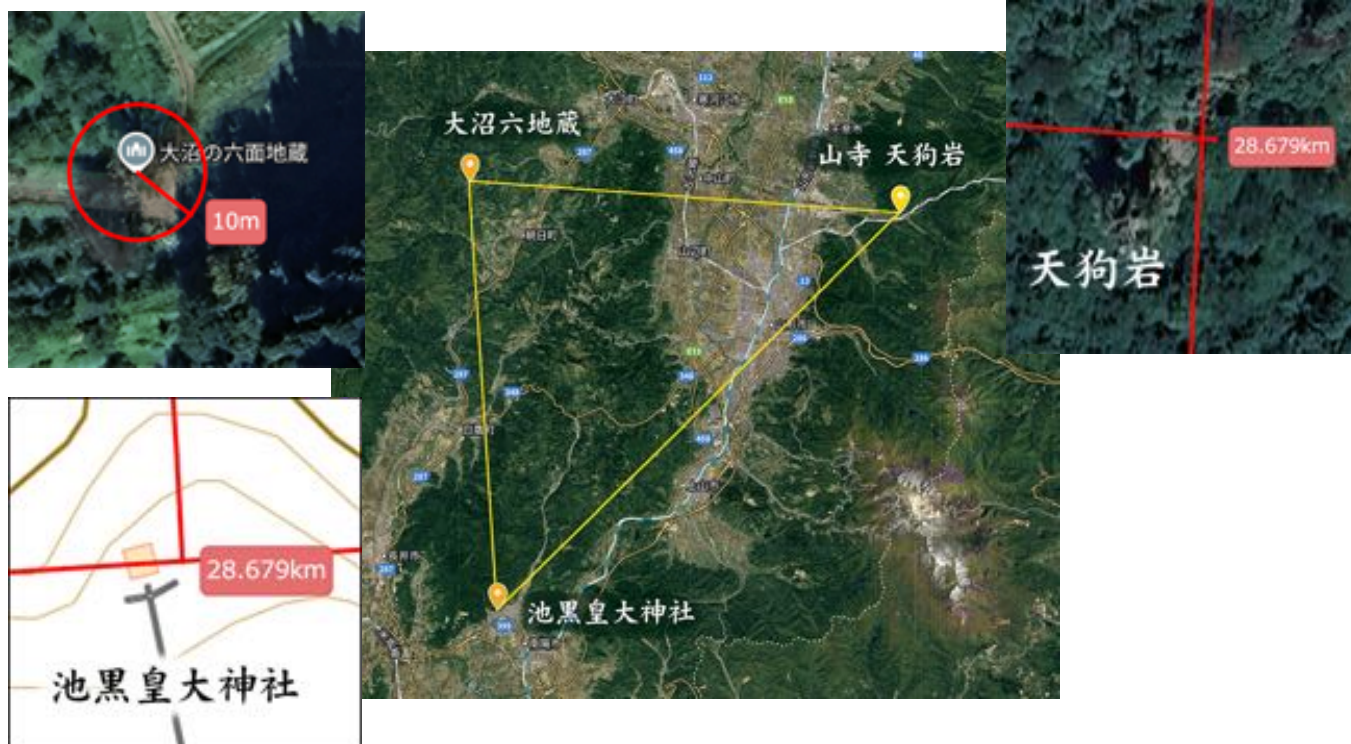
詳細不明 山形市山寺 4 4 1 7（写真右）

●瑠璃殿も大沼六地藏も立石寺奥の院と池黒皇大神社に繋がっているのでは!と思ったが違った。瑠璃殿は弥陀洞につながった。自然聖地なので磐座は重要ポイントとなる。そして弘法大師堂にも。なぜ山寺に空海が祀られているのだろうか…検索しても何も出てこないのので現地取材してみようと思う。きっと逸話が残されているのではないだろうか。

●実はもう一つ。奥の院脇の小さな建物にもつながった。なにかの社だろうか…。ただ、奥の院に車で行くための連絡道路のように思えるので何か物置とかだろうか。これも入れるなら現地で確認してこようと思う。参考まで記録しておく。



大沼六地藏



■池黒皇大神社 →→ 28.679km →→ 大沼六地藏 ←← 28.679km ←← 天狗岩

■大沼六地藏

大沼の六地藏尊は六体地藏ともいい町内では珍しい。台座の上に約40センチの円柱が立ち、上部25センチの所に六体の地藏様が仲良く刻まれている。どの顔も童顔あどけない。全高180センチ。安山岩でできている。子育て地藏で、安産、縁結び、交通安全の守護仏として昔から崇敬の的となっていた。戊辰戦争の折、官軍が大沼に乱入し小清に進軍した時にこの六地藏は倒されそのままとなっていた。別当白田家の夢枕に地藏様が立ち、明治37年に復興されたと伝わる。山形県西村山郡朝日町大沼 ※サイト「あさひまちエコミュージアム」より抜粋



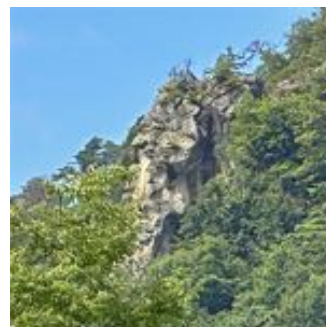
■山寺 天狗岩（天華岩）

・天華岩の東側の洞に朝日観音、十六羅漢が祀ってある。西には七松岩と呼ばれる岩がある。

・1939年に発行された絵葉書には

「山寺寶珠山名勝 天狗岩 山寺の奇岩中 最も雄大を極む」とある。

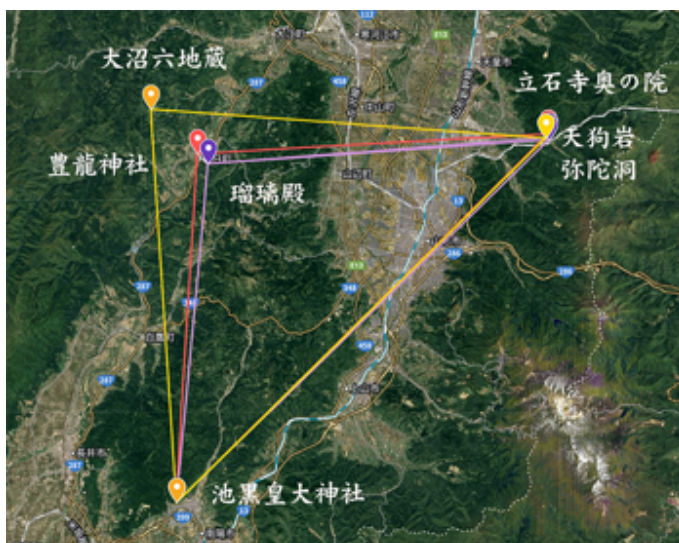
・山寺第一の名岩でテングの面に似ているところから、別名天狗岩とも呼ばれている。 山形市山寺



●六地藏の別当が白田姓だが、白田家は大谷に移り住んだ菅原道真の子孫にあたる。大沼では宿坊頭を務めていたと聞いたことがある。

●絵葉書で山寺に数多ある奇岩の中で最も雄大だと表現された天狗岩とつながった。先の弥陀洞同様、磐座こそが最も神聖なスポット。現在は禁足地となっているらしい。奥の院と同等の聖地と言える。

●瑠璃殿→豊龍神社→大沼六地藏のラインを追求してよかった。大切なつながりを見落とすところだった。



●朝日町史では、小さな瑠璃殿に薬師如来像が守られてきたことについて推測している。それは、当時は勧進聖のような草の根レベルで民衆に仏教を拡めた活動があったとし、その宗教的情熱が民衆に仏像やお堂を作らせ現在に伝えたのだらうと。しかし、祭祀線を見れば、そんな簡単なことではないことがわかる。朝日町にはかつて出雲族の末裔たちが守ってきた朝日岳信仰があった。かつて日本には二つの国が存在していて東北は国譲りから逃れてきた出雲族の日高見国だった。たとえば源義経は日高見国に亡命してきたのだ。朝日岳信仰は、その出雲国にとっての聖地だったからこそ、蝦夷征伐のたびに衰退し、最後に北条執権によりお取潰しされ、ついに出雲国は大和朝廷に飲みこまれてしまった。その背景に触れなければ本当の歴史は見えてこない。そんな時代に瑠璃殿や豊龍神社は大切な役割を担っていたのである。